



あくていぶ21 森 喜代造 議員

- 1 定額給付金について
 - (1) 現状について
 - (2) DVについて
 - (3) 今後の対応について
- 2 学校の現状について
 - (1) 不登校の実態について
 - (2) 校内暴力等の問題行動について

質問1(1) 今までの対応と福祉関係の対応及び給付金を受けた件数と総額、外国人に対しての対応は。

答弁1(1) 広報せずか等で周知をし、要支援者には個別に対応を行った。給付件数は8月末で約7万8千件、給付総額は約29億7千万円、外国人には通訳を配置し、申請書等案内は3か国語で対応している。

質問1(2) DV被害者の扱いはどうしているのか。

答弁1(2) 福祉支援の一環として、鈴鹿市DV被害者特例給付金給付事業を行っている。

質問1(3) 未申請者に周知はどうしていくのか。

答弁1(3) 再度、案内文書を発送する。高齢者世帯には民生児童委員に協力をお願いしている。

質問2(1) 小中学校で確認されている数と学校の対応はどうしているのか。

答弁2(1) 平成20年度は222名で過去3年間は減少傾向にある。スクールカウンセラー等を配置し保護者や学校と連携を取り、総合的に取り組みたい。

質問2(2) 報告件数と今後の取り組みについて。

答弁2(2) 平成20年度は問題行動の発生件数が近年増加しているため、規範意識や自己肯定感向上の取組を推進していく。



あくていぶ21 青木 啓文 議員

- 1 鈴鹿市の環境施策について
- 2 生活保護費受給問題について

質問1(1) 鈴鹿市の環境問題に対する考え方、クリーンエネルギー自動車と住宅用太陽光発電システムに対する補助制度及びCO2削減効果は。

答弁1(1) 市、市民及び事業者の協働により、人と自然、あるいは人と人の共生を目的としている。クリーンエネルギー自動車補助は350件、2,100万円の予算を確保。本年8月末までの累計で約356トンのCO2を削減。住宅用太陽光発電システム補助は国の補助制度復活に伴い、補助を休止している。

質問1(2) レジ袋有料化のこれまでの取組みと実績

について。

答弁1(2) 平成20年9月1日からレジ袋有料化を行っており、レジ袋削減(有料化)・マイバック推進会議を組織し、さまざまな啓発活動を行ってきた。現在鈴鹿市の実施事業者数は13事業者40店舗であり、平成21年6月までのレジ袋削減枚数は2,045万枚である。

質問2 「生活保護調査委員会」の報告を踏まえどのような改善に取り組んだか。また、国への返還額が確定する時期及び返還方法は。

答弁2 研修会を定期的に開催し、職員の情報共有の場としている。返還額の確定は、国が決定するため未定だが、早い時期に確定していただきたいと思う。返還方法は様々な手法を検討し、適切な対応を講じる所存である。



あくていぶ21 伊藤 健司 議員

- 1 高額医療・高額介護合算療養費制度
- 2 排泄ケア・おむつ支給事業について
- 3 障がい者就労・雇用支援について

質問1 制度の基本的枠組み・留意点・周知方法は。

答弁1 国民健康保険の高額療養費算出対象世帯において介護保険受給者がいる場合、一定基準額を超える自己負担額を合算し、超過分が払い戻される。10月以降に知らせる。

質問2 おむつ支給事業の問題点と改善策について。

答弁2 支給されるおむつの種類の中にリハビリパンツを加えることや各種の多様で柔軟な組み合わせについてはケアマネージャーや地域包括支援センターの意見を聞きながら対象者のニーズに合った多様な要望に

応えるように検討・改善していきたい。おむつ訪問票における状況内容(常時便失禁の撤廃)は支給条件を精査し、適切に対象者を決定する。

質問3 来年度職員採用における障がい者枠2名の根拠と今後の雇用計画および知的・精神の方々への対応。民間企業への支援と在学中、卒業後の就労支援について、本市としてどう考えているのか。

答弁3 現在23名の障がいのある方を職員として雇用している。教育委員会が2名の不足であり今後も計画的に配置していく。知的・精神の方に対しましては就業体験の実施にとどまっている。民間企業への支援は総合評価落札方式に障がい者雇用評価項目を追加した。卒業後の就労の場の確保については、事業所等の理解を得た上で、学校と連携して実施。